



## 福島県立医科大学付属病院へ組合員の感謝届ける！

★ 新型コロナ感染症への対応にお役立てください ★

連合福島は、2021年度第4回執行委員会（2021.1.14 開催）で確認した、医療従事者に対する支援金について、寄贈先の調整を行った結果、新型コロナウイルス感染症の治療および、回復後の経過観察に必要な、パルオキシメーター（血中酸素濃度計）が不足していることが判明し、購入支援の目的で福島県立医科大学付属病院へ寄付金を寄贈した。

また、パルオキシメーターは新型コロナウイルスワクチン接種後の、副反応等経過観察にも有効であり、県内の医療機関において同メーターが不足する場合、医大病院から貸与することも可能とのこと。組合員皆様の善意は、新型コロナ対策へ有効に活用されます。

贈呈式において今野会長より「コロナの課題は、社会や生活に様々な影響を与える中、特に医療従事者・関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。連合福島は、地域に根差した社会貢献活動の発展による、支え合い・助け合い運動の推進に向け、様々な取り組みを行っています。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療の最前線で日々ご活躍を頂いている皆様への感謝として、県内の感染症対応の拠点となる福島県立医科大学付属病院に対し、パルオキシメーターの購入費用として、支援金を寄贈することとしました。

コロナ治療はもとより、回復後の経過観察などに活用いただき、皆様の一助となれば幸いです」と挨拶した。

福島県立医科大学付属病院の鈴木弘行病院長より「この度の連合福島並びに組合員の皆様からの、多大なるご支援に感謝申し上げます。県内唯一の第一種感染症指定医療機関であり、コロナ対応においてはあらゆる資源を投入し治療にあたっています。新型コロナウイルス感染症は、自覚症状のないまま突然重症化することもあり、血液中の酸素濃度を測定できるパルオキシメーターは、大変有用な機器であり大切に活用させていただきます。

コロナ対応は長期にわたり、医療スタッフの精神的な負担も大きくなっている中、皆様のご厚情は大変うれしく、勇気づけられるものであり、心から御礼申し上げます」とご挨拶いただきました。



（左） 目録を贈呈する今野会長 （右） 鈴木弘行 病院長

『どうもありがとう』



連合福島は、「DO・もー」プロジェクトであなたの「ありがとう」

届ける・伝える・広げる、取り組みを展開します。

多くの皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

